

たむらソーシャルネット ニュース

大切なことに、気づくとき

有限会社たむらソーシャルネット

田村 満子

戦後六十年を迎えたこの夏、訪問先で、これまででないお話を聴く機会を数多く得ました。

「こんな話、この六十年誰にも話しなかった、話したところで、どうなることでもないし。」

と言いながら、特集番組を目にしたことを機会に話始めてくださる方。なかには、広島や東京のことは、わからないけど、ここ、大阪の町のことなら、と六十年前に戻ったような眼差しで話し始める方。いずれも、「そのとき」を実際に体験された方から聴かせていただく話、淡々と話される事実が、今、暮らしているこの地域で起こったこととは思えないものばかりでした。

そこうや大丸付近の町の様子、利用者の方自身が、布団一枚身のままといながら幼い子を背負って中ノ島で火の粉をよけた時の様

子、実家へ帰ろうと大阪駅で電車に乗ろうとした際に駅員に断られた様子。戦後、今の自宅や店舗で暮らし始めた時の様子。「こんななんの役にも立たない話、思わず話してしまつて。」と恥ずかし

そうに話し終わられ、「貴重なお話を」とお礼を言うと「そうやな、もうこんな話できるもん、おらんな」と多くの方が返されました。これまで何回も面接を重ねてきた方がたとえ交わした話題。これまでも飲み込んでこられた言葉を話してくださったことで、普通に暮らし続けることが、どれほどの重みを持つていることかをあらためて利用者の方と共に、実感した時間でもありました。

利用者の方がたが、積み重ねてこられた時間のなかで、飲み込んでしまわれた言葉が数多くあるのだと感じています。地域に暮らしておられるからこそ、お聴きできる話題を通じて、忘れてはならない大切なことを、日々の活動のなかで再確認していきたいと思

っています。

地域ケアの原点を体感する

立教大学教授

高橋紘士 様

たむらソーシャルネットは谷町六丁目の地下鉄を下車して、からほり商店街のアーケードを歩き、数ブロック歩いて八百屋さんの横を右折して、お医者さんの横にある二階建ての建物にある。

田村さんのオフィスを訪問するのにも楽しみだが、からほり商店街の賑やかな売り声や昔ながらのディスプレイを眺めるのも、とても楽しみなことだ。上方商人の心意気のような勢いのお客さんとのやりとりは、東京の商店街ではもはや味わうことはできないものだ。ディーブな上方の生活感をここで体感することができる。

サロンにおじゃまして、ここを利用しておられるみなさんとあれこれとお話しをしながら過ごす、いつものまにか時間を忘れてしまう。

サロンを利用しておられる方々は、施設や病院ではお世話が難しいと言われ、地域に戻ってきた方々とのこ

と。ここで時間を共にしていると、どうしてそんなことになったのか訝しく思える方々である。施設での集团的ケアになじまなかったり、精神病院の閉鎖病棟で、みずからの生活を自律していくことを奪われた経験の持ち主であるとのこと。スタッフの皆さんによる、それぞれの個性をふまえた個別的な支援によって、人間らしさを回復した結果、それぞれの願いを心おきなく発揮しつつ地域での日々の生活を営んでいることを拝見するのは、私にとつて目から鱗の落ちる思いの連続である。そして、からほり商店街が核となっているこの地域がこのサロンを利用されている方々を支えているという実感を持つことができる。

たむらソーシャルネットの実践は、私の尊敬する社会福祉学の先達である故岡村重夫先生が、上方の地で熟成され主唱された地域福祉理論を具現しているように思えるのだ。その意味では、からほり商店街を抜けてたむらソーシャルネットのオフィスを訪ねることは、日本の地域ケアの原点にふれることにもなる経験であることは間違いな

たむらソーシャルネット活動報告

今年一年の活動報告です。昨年からの引き続き実施している活動や、昨年から少し形を変えて行っている活動もあります。

◆◆ 訪問介護事業 ◆◆

【介護保険サービス】

介護保険制度における「サービス提供事業所」の指定を大阪府より受けております。皆さまのご自宅におうかがいし、サービスの提供を行います。

平成十七年十月現在 利用者数 二十二名

【介護保険外サービス】

介護保険外の介護、外出支援などを行います。施設入所や病院に入院されている方を訪問し、話相手や散歩、買い物などの同行等を実施しています。今年度は墓参りや美術館へ同行したり、レストランや喫茶店で一緒に食事をしたりしました。

平成十七年十月現在 利用者数 六名

◆◆ 居宅介護支援 ◆◆

【ケアプラン作成】

ケアプランの作成 介護保険の申請代行や、介護保険でのサービスを「どこで」「どのくらい」受けるのかといったサービス計画を作成します。

平成十七年十月現在 利用者数 三十四名

◆◆ サロン ◆◆

生活リズムを整えるため、昼間の過ごし方を再構築するための場とし、個別対応に努めております。特にプログラムを設けず、参加メンバー、天候、健康状態により過していただいております。春には花見、秋には枚方大菊人形や天王寺動物園を見てまわりました。

平成十七年十月現在 利用者数 十名

◆◆ リビングスペース ◆◆

今年度も特別養護老人ホームに入所されている方が、新しい生活を考える機会にと、六日間体験宿泊をされました。また、訪問介護を提供している利用者の家族が、緊急に外出する必要がある、緊急対応で一泊二日の利用をし

ていただきました。介護者の一人一人の希望に添えるようサービスの充実を図っております。リビングスペースに関心のある見学者の受入れも行っていきます。

平成十七年十月現在 利用者数 三名

◆◆ 実習生受け入れ ◆◆

年間を通じて、各種実習生の受け入れを行っています。今年度は、大阪作業療法専門学校と日本社会福祉士会独立型社会福祉士研修の研修生の受け入れを行いました。

平成十七年十月現在 実習生数 二十二名

◆◆ 講師派遣 ◆◆

さまざまな関係先で講師活動をさせていただきますました。ありがとうございました。また、ご意見・ご要望などありましたら、ぜひお願い致します。

◆◆ 相談事業 ◆◆

個人や法人との契約に基づいて、年間を通じて様々な相談に応じていきます。今年度は、公的な相談窓口では援助が難しい方々からの相談に応じる機会が重なりました。

◆◆ 勉強会 ◆◆

利用者の方々へより良いサービスが提供できるよう、月に一度勉強会を実施しています。内容は介護技術、救急対応、権利擁護等についてなどです。外部より講師をお招きすることもあります。今後とも勉強を重ねていきたいと思っております。

編集後記

ニュース発行にあたり、ご協力くださいました高橋様、山口様、M様、緋田様、野木様、小西様、藤井様、松尾様ありがとうございます。

ニュースの内容や、たむらソーシャルネットの事業に関して、ご意見、ご助言がございましたら是非スタッフまでお願いします。

〒542-0012

大阪市中央区谷町6丁目14-23

TEL 06-6766-7071

(有)たむらソーシャルネット

講師分類別構成比(%)

講師先	構成比
公的機関	11.9
大学	11.9
職能団体	22.0
民間	54.2

あてな井(あいない)井(い)井(い)

ハイブリッドインターネット

◇ たむらソーシャルネット訪問介護
◇ 事業をご利用のみなさまからさま
◇ さまざまな「声」をお聞きすることが
◇ できました。

緋田 花子 様

『いつも皆さんのおかげで幸せに暮ら
させていただいています』

「あつち向いて、こつち向いたら忘れ
るんや」と話しながらも、今年七十歳
になった緋田様は、阿倍野に独りで住
んでいます。靴を脱いでもどこに置い
たのか分からなくなり、毎回靴を探さ
れたり、入浴中も頭を洗ったことを忘
れ、何度も頭を洗おうとされます。
また緋田様は、「働くのが好きなん
や」と若いころから一生懸命働いて、
色々な人のお付き合いをしてこら
れました。その社会性から人を褒める
のがとても上手く、サロンの利用者の

方々に「このひと九十五歳？ひええ、
九十五歳には見えへんなー。耳もええ
し、元気やなー」と話したり、「奥さ
んの手、娘さんみたいに白いなあ」と
褒めたりと、周りの雰囲気もとても和
やかにしてくれます。でも、大きな声
をあげる人がいると「おつちゃん、え
えかげんにしいや」と、たしなめたり
もします。緋田様のこれまでの人生観
が伺えます。

現在はサロンを週四回、利用してい
ます。スタッフと一緒にチンチン電車
に地下鉄という公共の交通機関で、サ
ロンにやって来ることもあります。

「何でも自分でできることはせなあ
かん」と話し、サロンでは洗濯や縫い
物、書道をされ、現在では書道6級を
取得されるまでになりました。

緋田様は、「いつも皆さんのおかげ
で幸せに暮らさせていたただいていま
す」と話し、訪問する私たちスタッフ
は褒めごろしにあっています。



M・M 様

『毎日 費(た)用(づ)い(ま)す』

毎日、夜十時頃から銭湯の番台に座ると
いう、Mさん。深夜一時頃まで営業するため
どうしても寝るのが遅く、起きるのも遅くな
ってしまいます。そのせいか、日中はあまり
出掛けることがなく、家の中でテレビを見て
過(と)してしまいました。

ヘルパーを利用して外出するようになり、
歩行器を押しながら、好きな買い物に行ける
ようになりました。畠間市場やスーパー、パ
ン屋などに行けるようになり、「良かった」と
笑顔で話しています。

また、外出すると、銭湯の常連さんとい
やかに話をしたり、近所の同級生と昔話をし
たりと、たくさんの人から声を掛けられま
す。どんなに疲れていても、笑顔で話を
されている姿が印象的です。

飼い猫のイチローに見送られなが
ら、今日もMさんは出掛けています。

山口 伊千恵 様

『料理 編(た)織(り)い(ま)す』

山口様は現在四十八歳で、入院中の方です。
月、木曜日に外出支援サービスを利用されてい
ます。

月曜日は堺東の高島屋やジヨルノに出掛け
ます。生活に必要なものを買ったり、ウイ
ンドーショッピングをします。先日は書店で夏
目漱石の『坊ちゃん』と『三四郎』を購入し、
ただいま読書の秋の真つ最中です。外出の一番
の楽しみは外食で、お寿司やラーメン、とんか
つを好まれます。

木曜日は電車とタクシーを利用して、たむら
ソーシャルネットのサロンにやって来ます。そ
して、食事作りをスタッフと一緒にします。ご
自分で決めた献立を、手際よく調理します。得
意メニューは餃子、かに玉、麻婆豆腐、散らし
寿司です。最近では、八宝菜やカレーライスも
加わりました。調味料にもこだわりがあり、計
量カップできちんと計ります。皆さんに「おい
しい」と言っていたとき、笑みを見せてくれま
す。午後からはクツシヨンカーを編み、完成
が待たれる今日この頃です。

